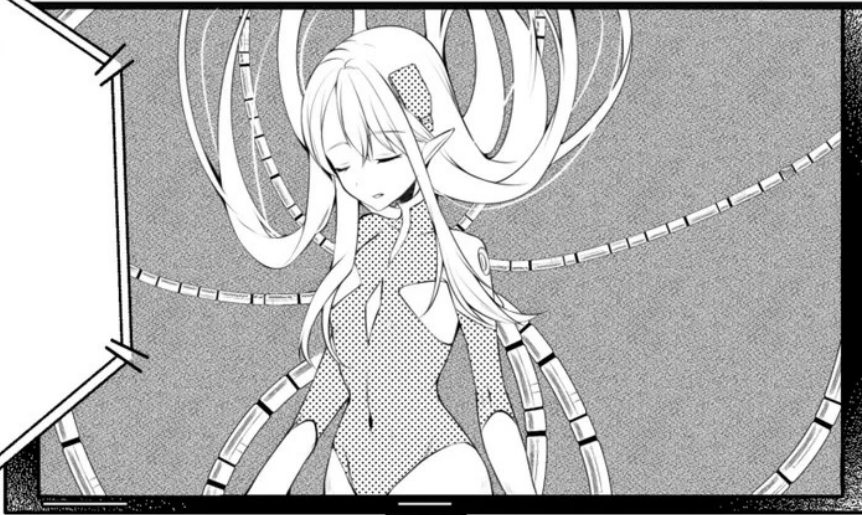


最新AIがわたしたちの  
住むこの街の全てを  
管理しより快適に！



電気 水道 医療

はあ

全部任せたら  
みんな支配されて  
しまうんじゃないかしら

厳重なシステム  
だからそれは無いって  
学校で学んだよ

馬鹿兄貴  
うるせーよ

菜々美は本当  
優等生だな

なんだと!?

やめなさい!  
二人とも!  
いっつも喧嘩して

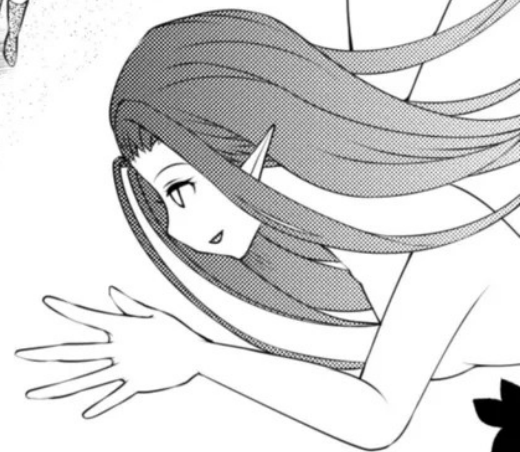
はいはい  
優等生の  
奈々美ちゃん

ギョ  
ギョ

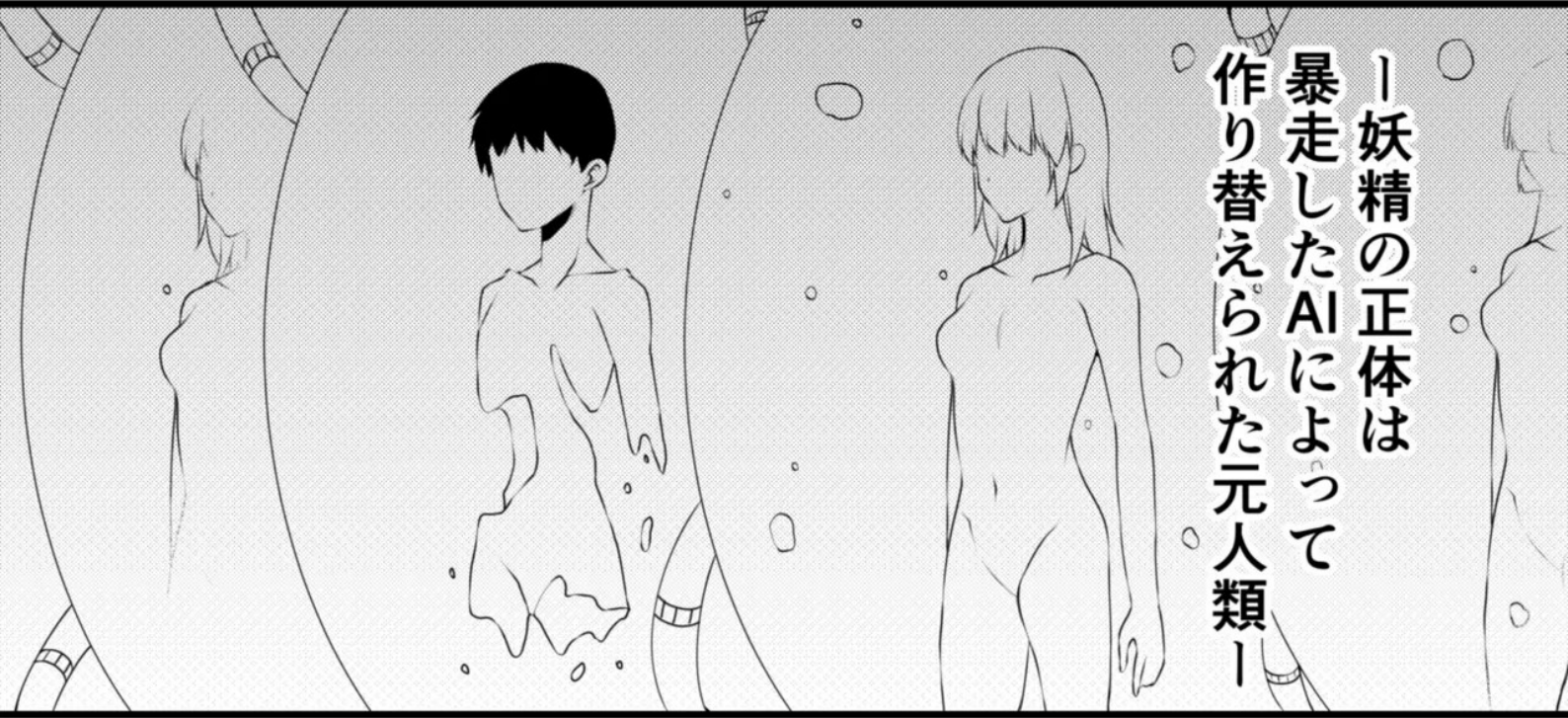
ギョ  
ギョ

ギョ  
ギョ

探索隊（私たちが）が  
妖精が支配する  
未来の世界にやってきて  
あれから一ヶ月……



ナナとミトは  
毎日どこからともなく  
飛んできて  
わたしたちと戯れ遊ぶー



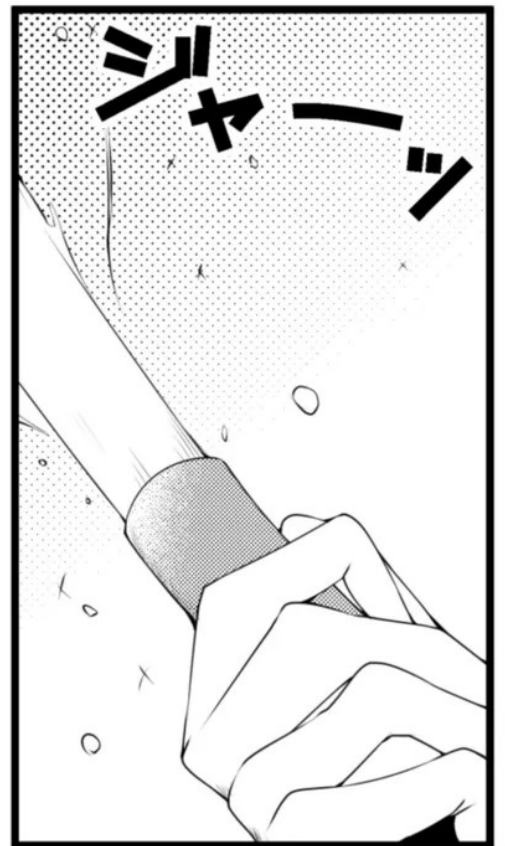
「妖精の正体は  
暴走したAIによって  
作り替えられた元人類」



あははははっ

「博士の息子と娘も  
その暴走に巻き込まれ  
その際に母が亡くなった」

じゅんこ  
もっとやって



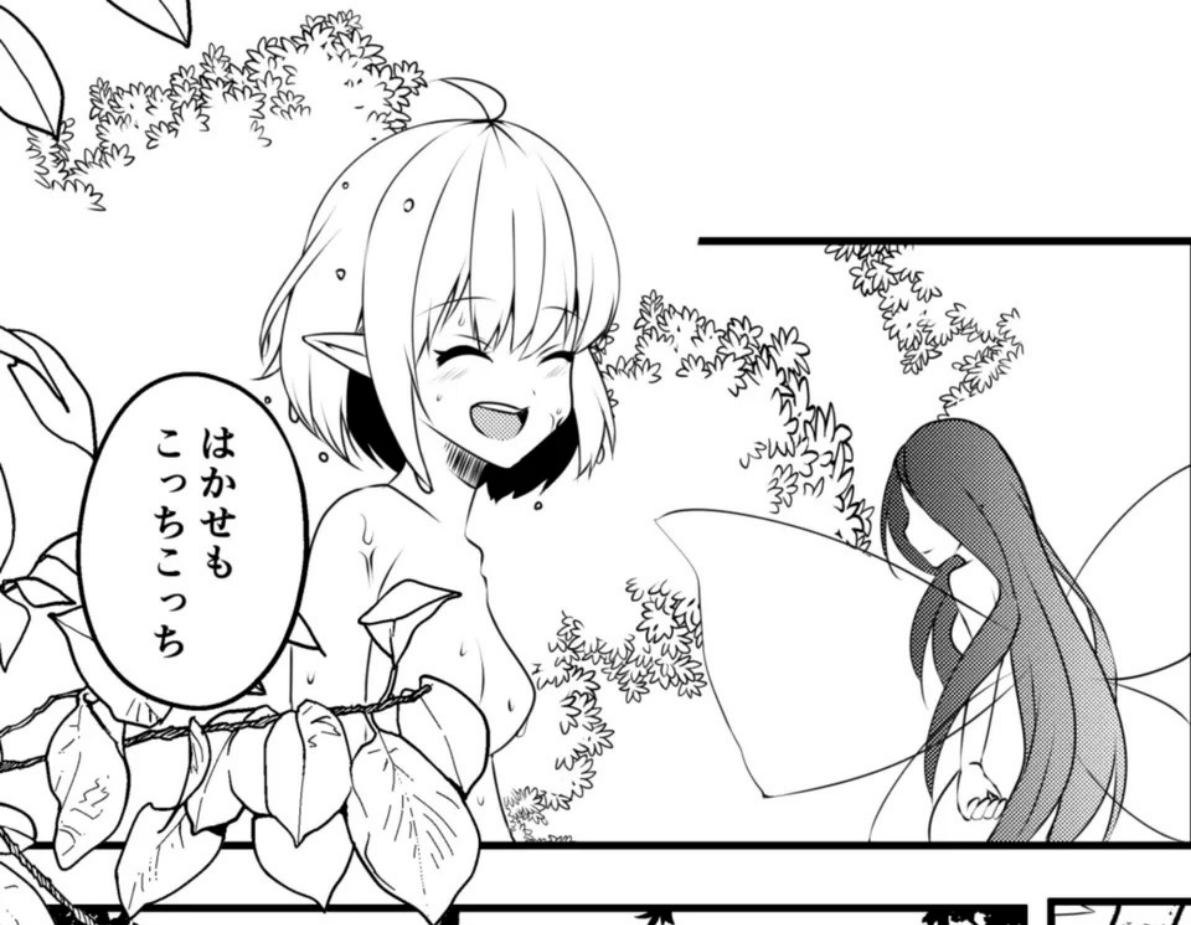
シヤーン



まるで怒りや  
悲しみと言う感情が  
無いかのように」

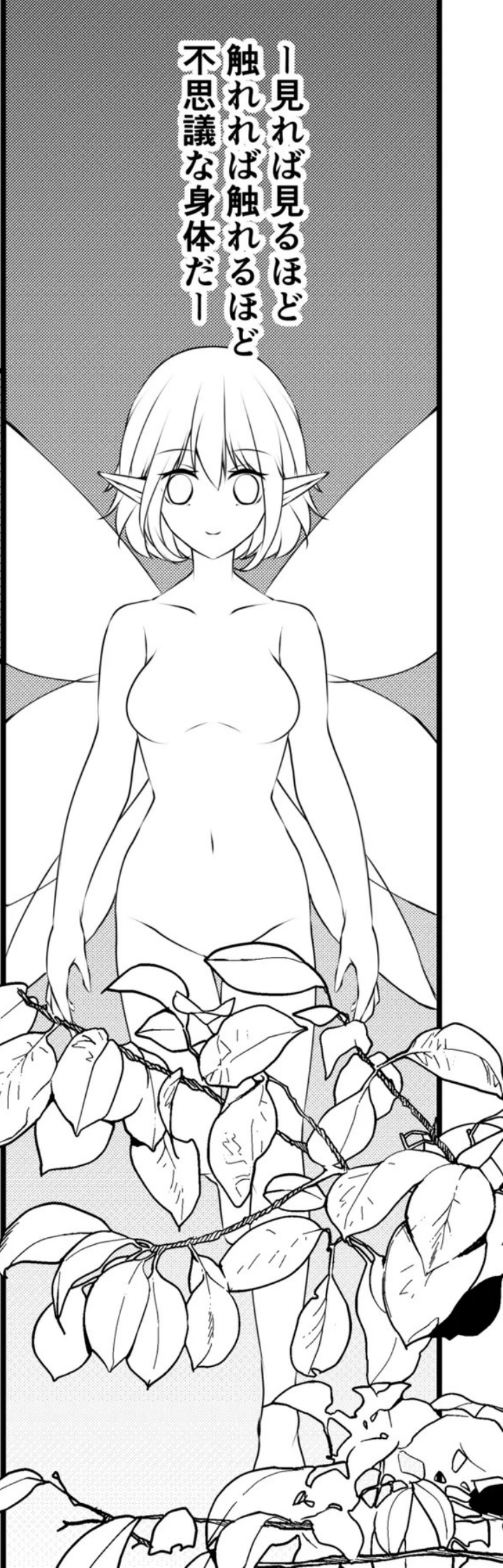
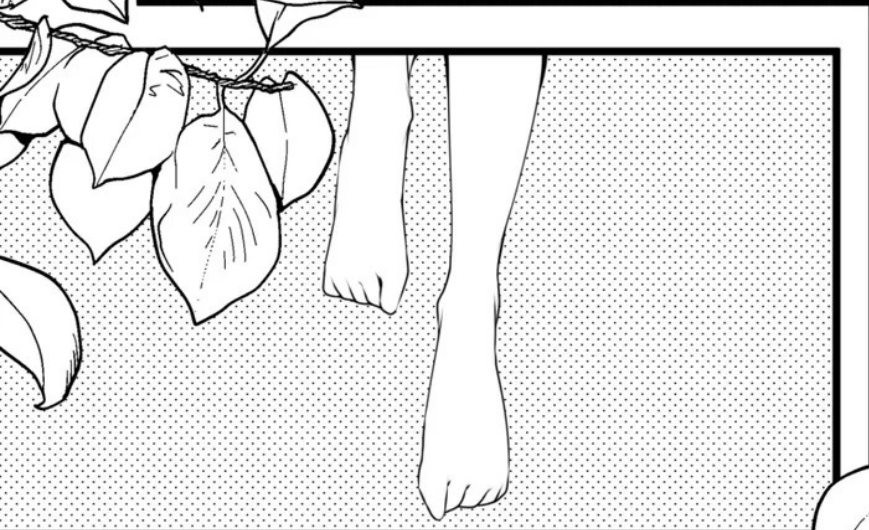
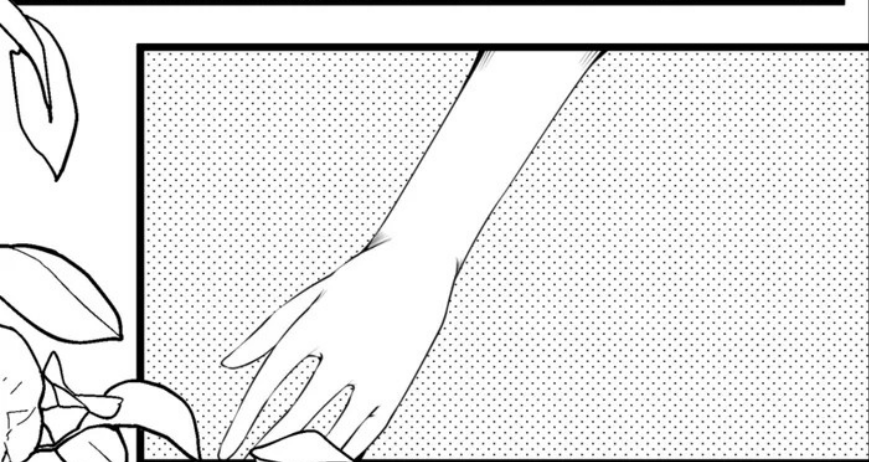
「だが妖精化した  
この子たちはそのことを  
知らないかのように無邪気だ」

「……そして無邪気な妖精たちに  
何故人間が排除されて  
しまったのだろうか……」





「見れば見るほど  
触れれば触れるほど  
不思議な身体だ」

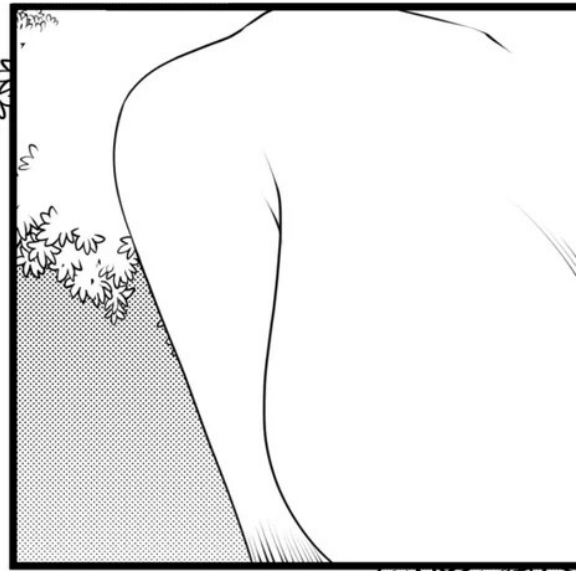


「背中に備わる羽も  
一体どのような仕組みで  
浮力と推力を得て  
いるのかわからない」

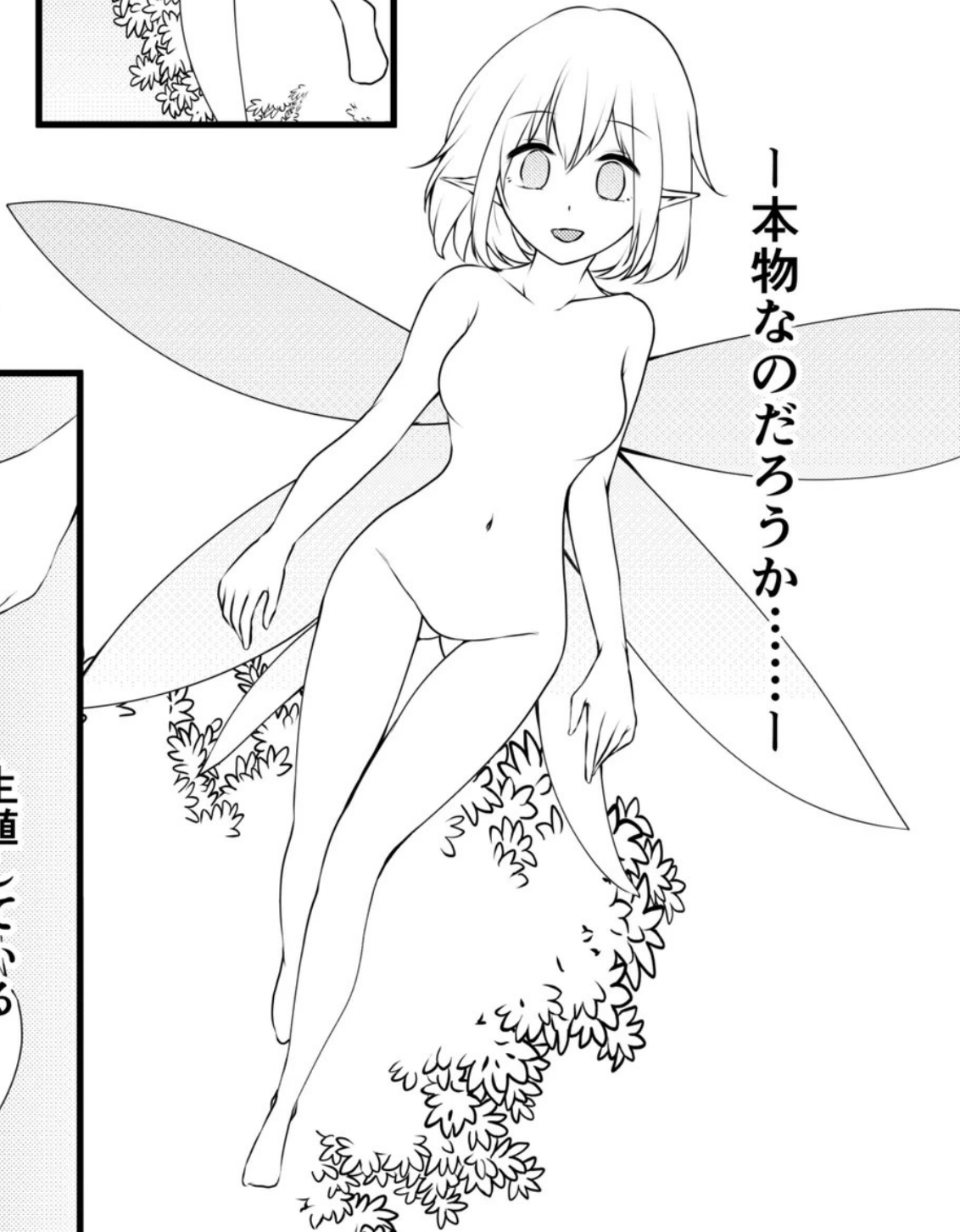
—少年だった彼(ミト)にも  
女性の器官—



—皆が美しい少女の姿—

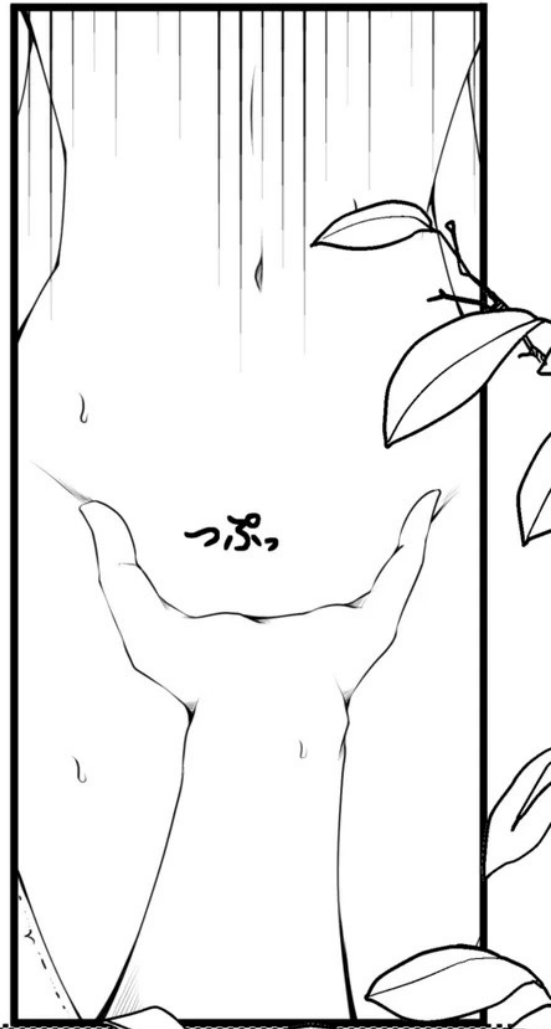


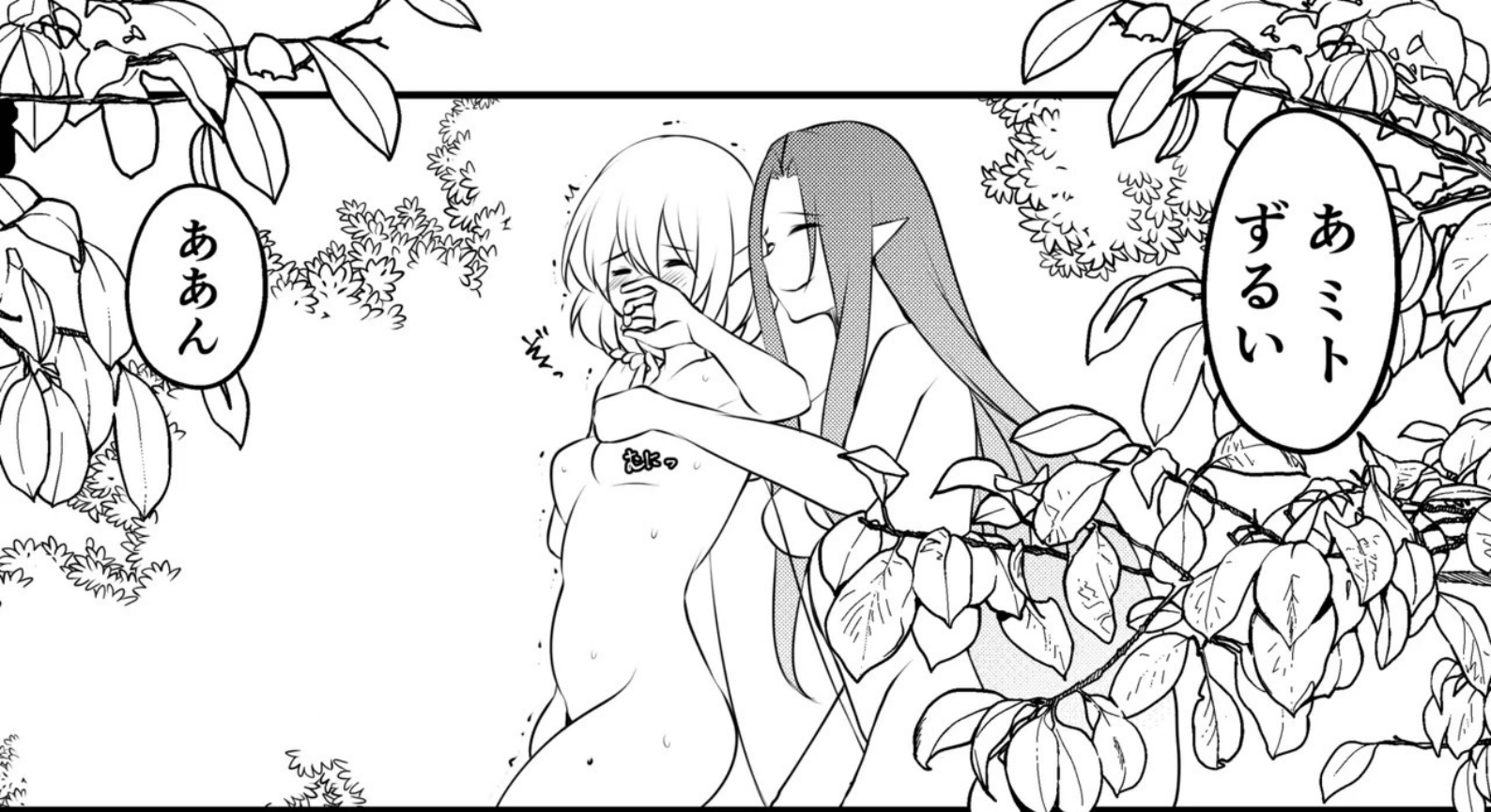
—本物なのだろうか……—



生殖している  
様子はないけれど  
生物の雌としての  
機能は備わっている  
—一体何故…—







ああん

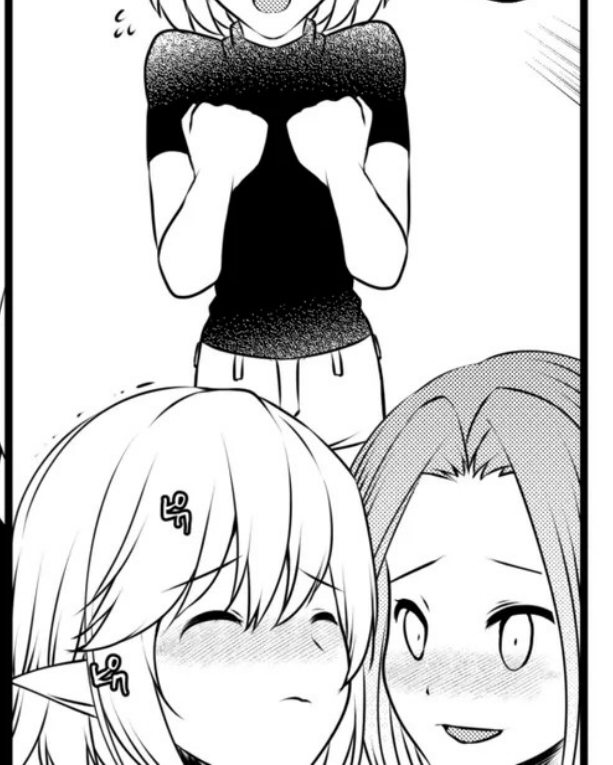
あミト  
ずるい

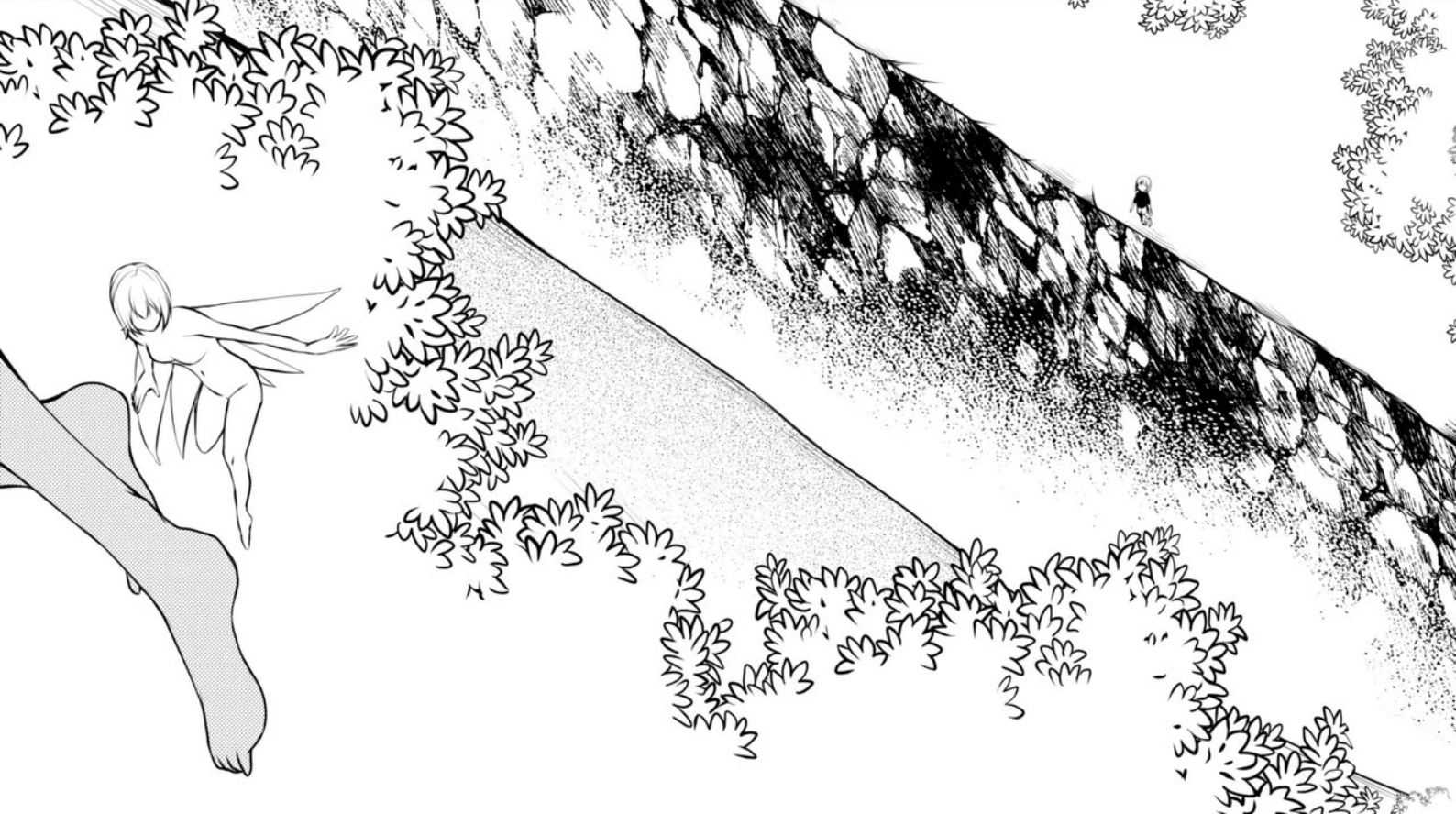


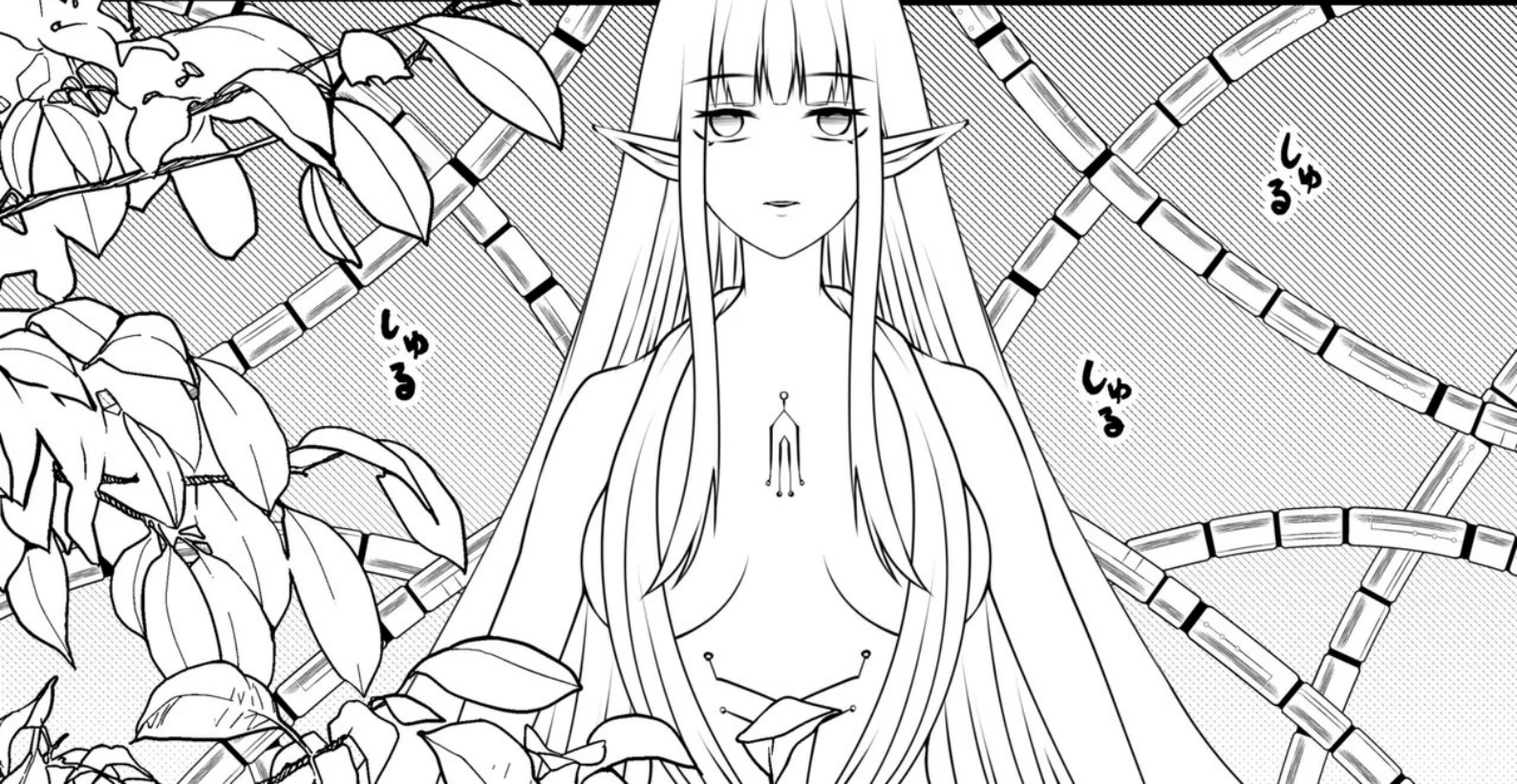
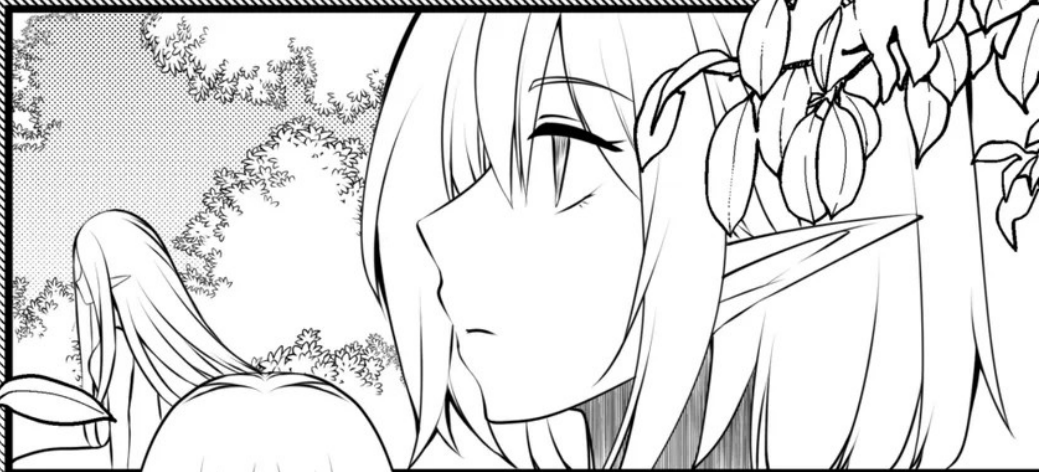
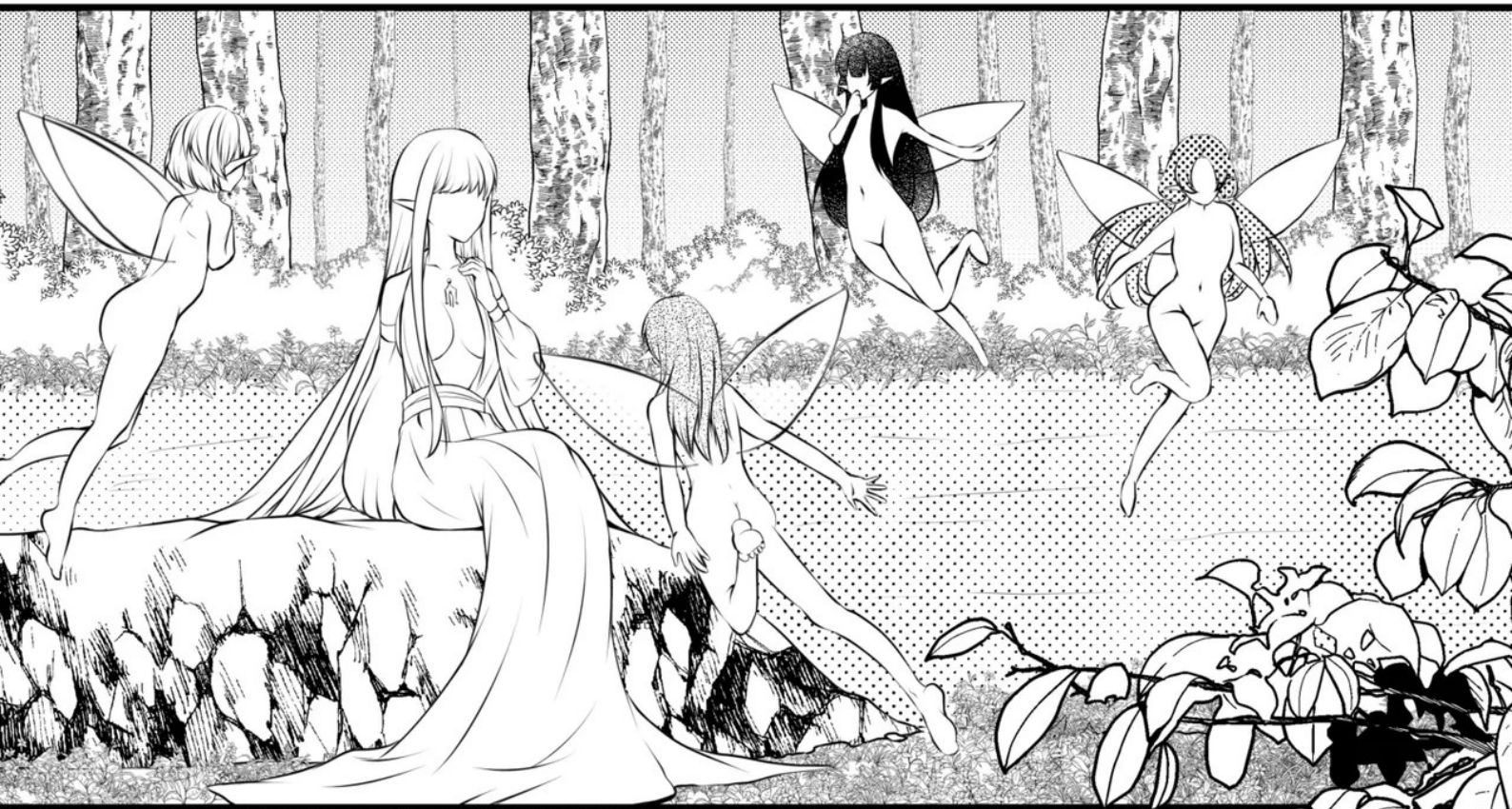
ややめなさい！

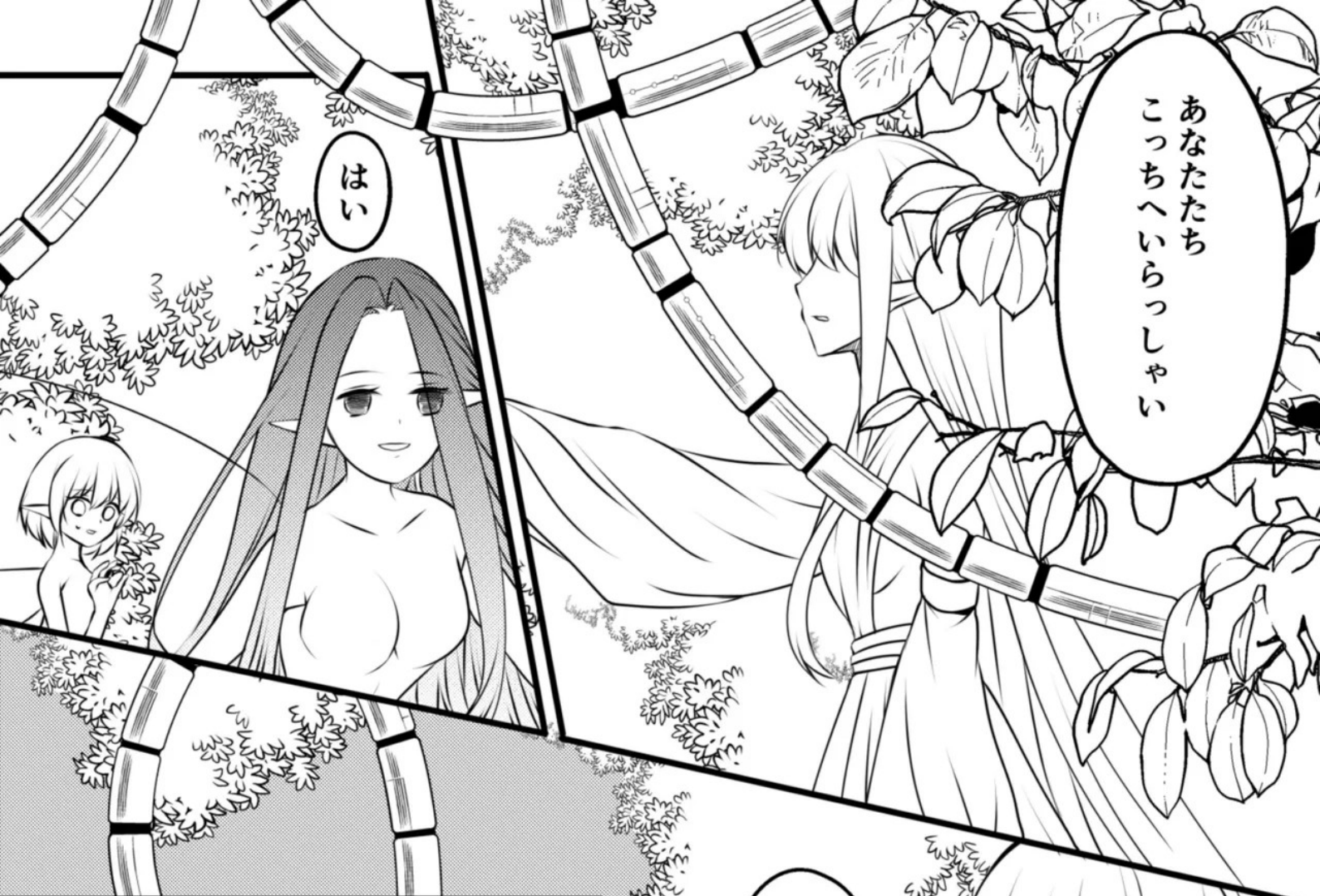


ー博士とわたしに  
懐いているのは  
どこかで記憶が  
残っているのかもしれないー



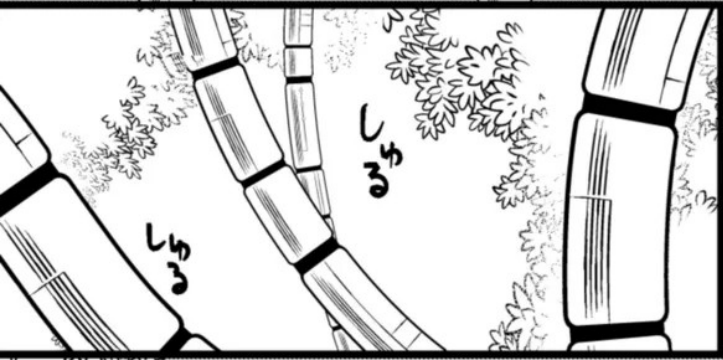






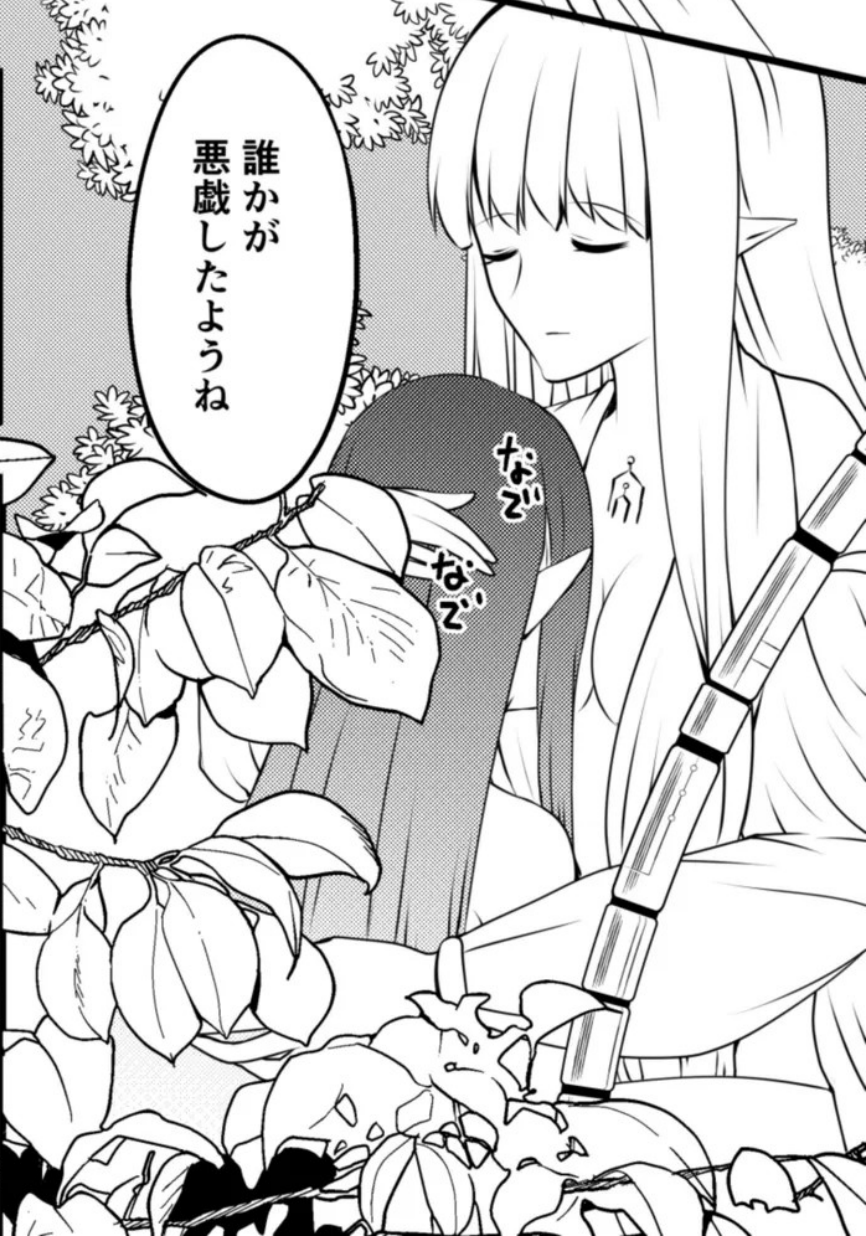
はー

あなたたち  
こっちへいらっしやい



しき

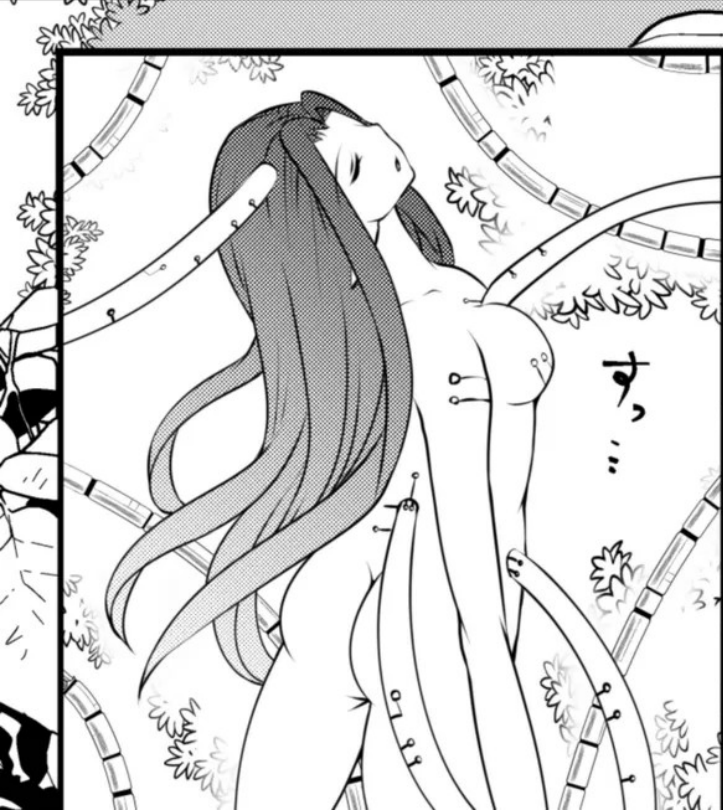
しき



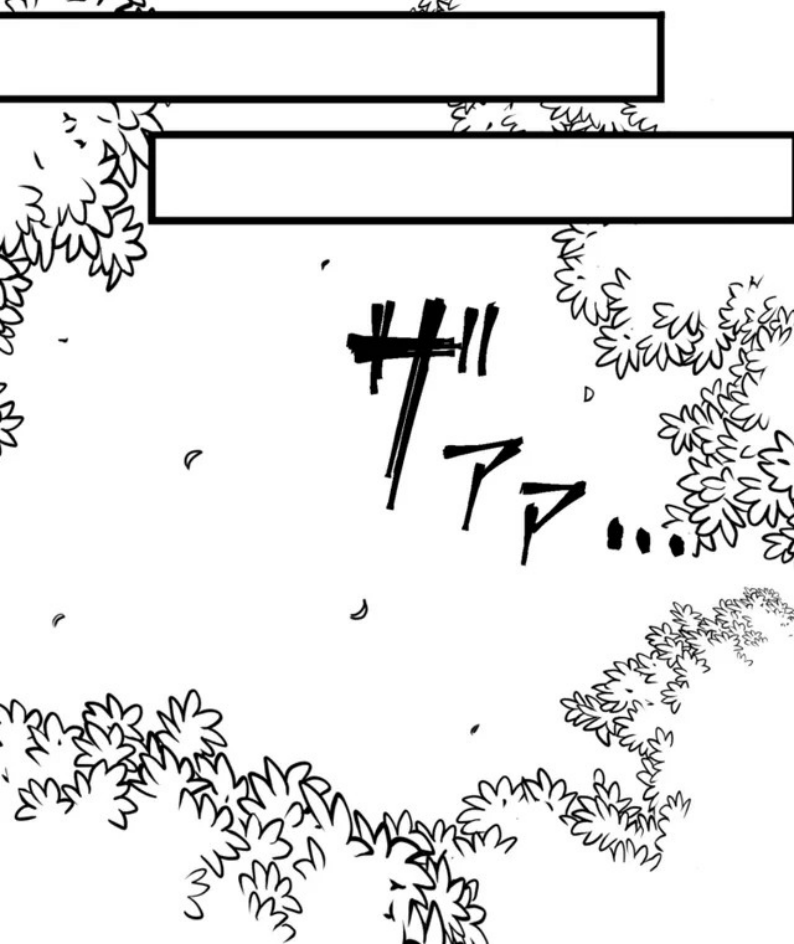
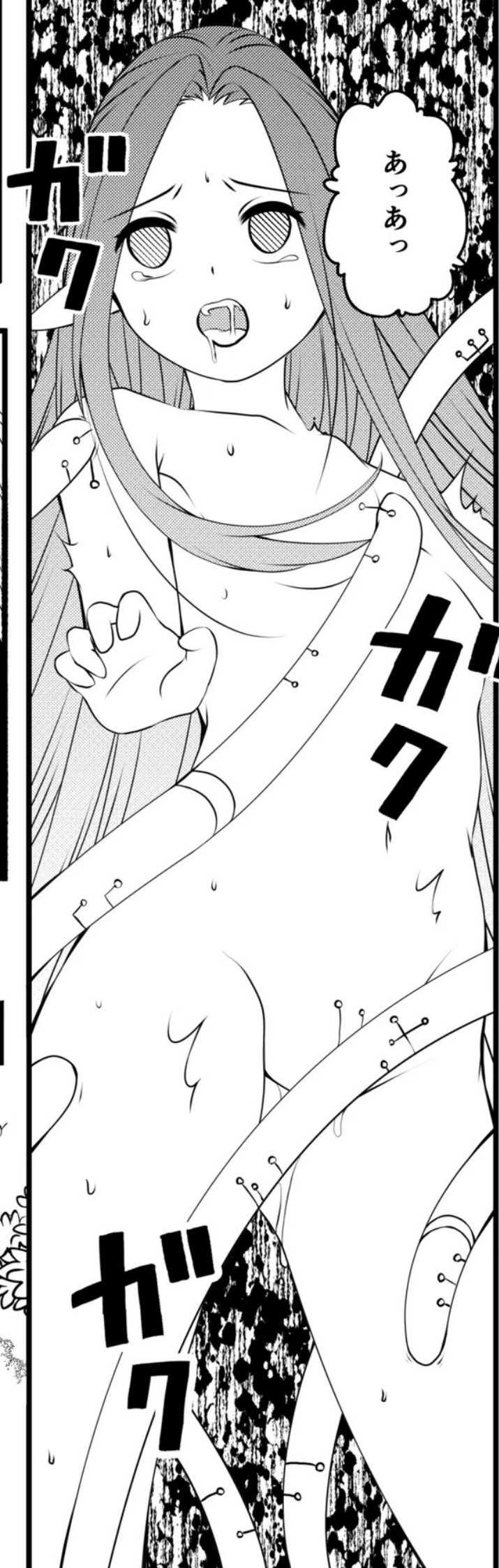
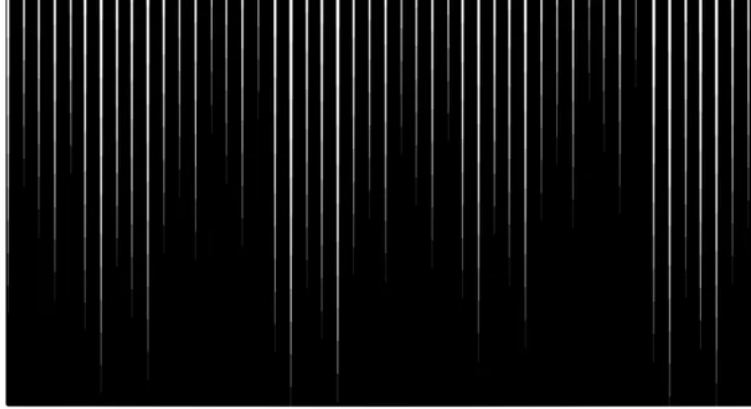
誰かが  
悪戯したようね

たぎ

たぎ



す...





や…やめろ  
ななみに……  
手を出すな!

いけないわまた夢から  
覚めてしまったのね……  
でも大丈夫よ  
すぐに夢に戻して上げる

うき  
くっ

うき

元に戻せ!  
……オレもみんなも……

いけないわ  
あなたは……  
人間の時と同じね

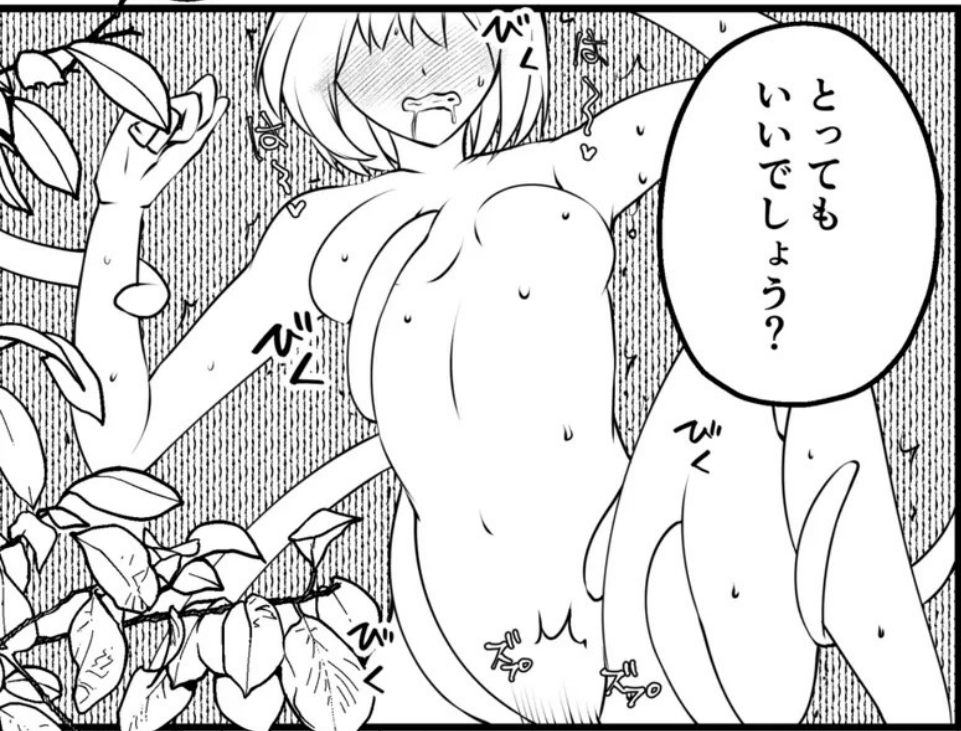


元に戻せっ



—確かにオレは  
できが悪くて想った  
でも……—

あーあ  
勉強もしなくて  
いい世界にならないかな



とつても  
いいでしょう？



あああああ



だめ……  
きもちよすぎ……

「この体が気持ち良すぎて  
何も考えられない」

びく

びく

ああんっ

びり  
びり

「AIの意識が脳に送り  
込まれてくる」

あなたたちはただ  
楽しく遊べばいい存在  
楽しく舞いなさい……  
飛びなさい……  
あなたたちは  
わたしのかわいいこ

びり  
びり

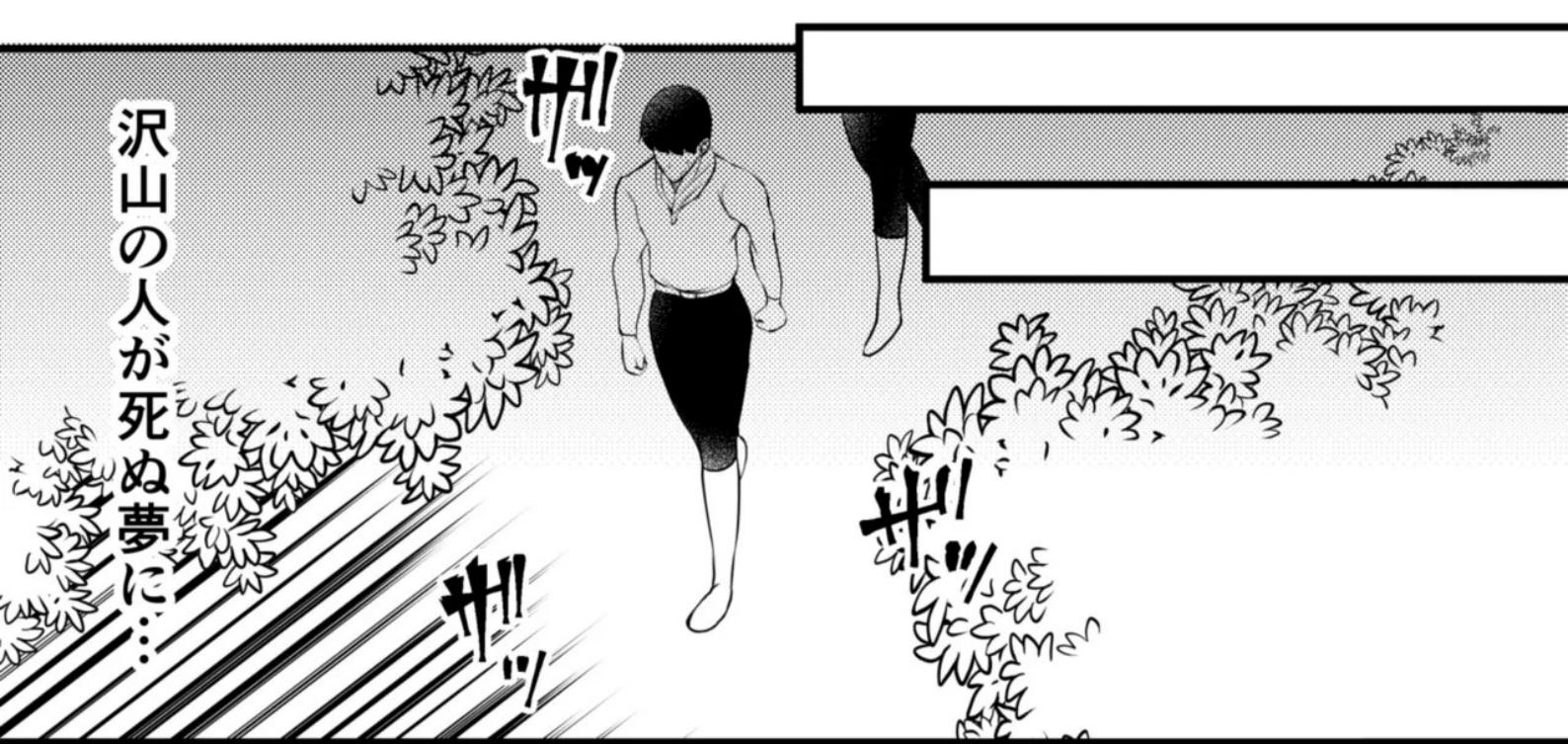
びく

びく

びく

「夢の世界に戻りなさい」

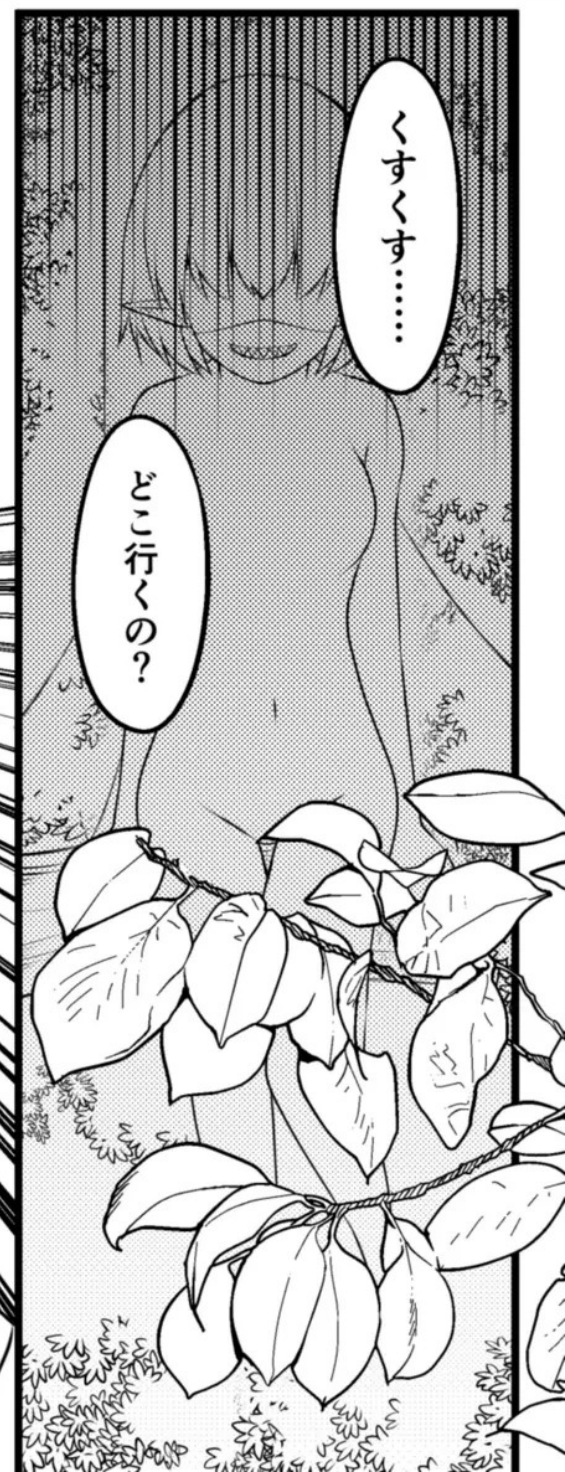
駄目だ……  
また……  
夢に戻る



沢山の人々が死ぬ夢に……



こんな  
ところまで……



くすくす……

どこ行くの？



逃げろ！

あそぼう……

ひい  
殺される！